



一般社団法人  
タウンスペース WAKWAK  
2023 年度 事業報告

「ひとりぼっちのいないまちをつくる」（社会的包摂の実現）をめざして以下のとおり事業を行いました。2023年度は富田エリア事業における子どもから高齢者までの切れ目のない支援を生み出す事業を新たにスタートし地域の様々な担い手の方々と多岐にわたる事業にチャレンジしました。

また、2021年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、全国において社会的不利を抱える子どもたちや家庭により一層の不利がかかっている社会状況を受け、従来の富田地区を基盤としながらも市域全域に支援対象を広げ多セクターとの共創によりインパクトを広げました。具体的な事業として認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ休眠預金通常枠事業「居場所の包括連携によるモデル地域づくり(全国)」および高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業（厚労省支援対象児童等見守り強化事業）のいずれも3か年目となる事業、また、2か年目となる厚生労働省・子ども家庭庁「ひとり親等の子どもの食事等支援事業」を受託しました。これらの事業を通して市域で活動する子ども支援団体をはじめ多様なNPOや学校、大学、企業、医療関係、宗教関係等の分野包括的なネットワーク（地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク）を構築し、かつ高槻市との事業等とも連動させる中で官民連携の仕組みを構築しました。

## I. 法人運営事業

### 1) 会員拡大

各種事業の場や広報活動を通じ、本法人の目的に賛同しともに活動を進めようとする正会員および賛助会員について以下の通りの会員数となりました。

	会員数	口数	前年度会員数	口数
正会員（団体）	5	13	1	5
〃（個人）	11	11	16	20
賛助会員(団体)	7	8	7	10
〃（個人）	78	275	73	275
合計	101名	307口	97名	310口

※法人格のない団体について個人として規定していましたが任意団体も団体と規定変更しました。

### 2) 理事会、社員総会および企画運営スタッフ会議の開催

#### ①理事会の開催

日時	場所	議案
第1回理事会 5月29日（月）	対面（富田ふれあい文化センター）およびオンライン（ZOOM）のハイブリッド形式	<報告案件> 第1号議案 2022年度事業報告承認について 第2号議案 2022年度決算報告について 第3号議案 2022年度監事監査報告について 第4号議案 2023年度事業計画（改訂版）について

		第5号議案 2023年度予算（改訂版）について 第6号議案 法人中期計画の策定について 第7号議案 業務執行理事および新任理事の報酬について <議決案件> 第1号議案 副代表理事の選任について 第2号議案 法人スタッフ・アルバイトの新規雇用について
第2回理事会 10月27日（金）	対面（富田ふれあい文化センター）およびオンライン（ZOOM）のハイブリッド形式	<報告案件> 第1号議案 2023年度上半期事業中間報告について 第2号議案 2023年度上半期中間決算報告について 第3号議案 法人スタッフの最賃変更について <議決案件> 第1号議案 2023年度下半期事業の方向性について
第3回理事会 3月27日（水）	対面（富田ふれあい文化センター研修室）およびオンライン（ZOOM）のハイブリッド形式	<報告案件> 第1号議案 2024年度事業計画案について 第2号議案 2024年度予算案について <議決案件> 第1号議案 決算理事会・社員総会の日程について

## ②社員総会の開催

日時	場所	議案
第1回 社員総会 5月29日（月）	対面（WAKWAK事務所）およびオンライン（ZOOM）のハイブリッド形式	<報告案件> 第1号議案 2022年度事業報告承認について <議決案件> 第1号議案 2022年度決算報告承認について 第2号議案 2022年度監事監査報告承認について 第3号議案 2023年度事業計画（改訂版）について 第4号議案 2023年度予算（改訂版）について 第5号議案 法人中期計画の策定について 第6号議案 理事の新任について 第7号議案 業務執行理事および新任理事の報酬について 第1号議案 副代表理事の選任について 第2号議案 法人スタッフ・アルバイトの新規雇用について
第2回 社員総会 3月27日（木）	対面（富田ふれあい文化センター研修室）およびオンライン（ZOOM）のハイブリッド形式	第1号議案 2024年度事業計画案について 第2号議案 2024年度予算案について

## ③企画運営スタッフ会議の開催

2023年度は理事・社員・運営スタッフ含め28名のメンバーでスタッフ会議を計3回、対面およびオンライン（ZOOM）のハイブリッド形式で開催しました。

① 5月29日 ②10月27日 ③3月27日

### 3) 情報発信活動

#### ①情報誌「WAKWAK通信」の発行

情報誌「WAKWAK通信」を計3回（第35号・36号・37号）発行しました。

	内容	発行部数
35号	(7月号) <ul style="list-style-type: none"> <li>・WAKWAKが描く未来へ</li> <li>・法人中期計画を策定</li> <li>・NikoNikoでの新しい活動が続々とスタート!</li> <li>・新ビジョン「ひとりぼっちのいないまちをつくる」さらにHPをリニューアル!</li> <li>・厚生労働省・子ども家庭庁への報告</li> <li>・「Takatsuki Art Challenge」展へ出展</li> <li>・決算社員総会・理事会を開催</li> <li>・第一回コミュニティ再生プロジェクト会議を開催</li> </ul>	各1500部
36号	(1月号) <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクションネットワーク発足から2周年</li> <li>・特集「企業との協働による食支援のしくみづくり（第1期）」活動報告</li> <li>・第13回アクションネットワークを開催</li> <li>・ボーダーレスアート展2023が開催されました</li> <li>・ティグレ上田卓三賞を受賞</li> <li>・緊急食糧支援（第4回）を開催</li> <li>・学習支援わんぴーすの近況</li> </ul>	
37号	(3月号) <ul style="list-style-type: none"> <li>・官民協働でセーフティーネットをつくる</li> <li>・特集「とんだわくわく食堂（第6弾）を開催」</li> <li>・市域広域へさまざまな食事等支援を実施</li> <li>・高槻市みまもりつながり訪問事業 今年度報告</li> </ul>	

#### ②インターネットを活用した発信

「タウンスペースWAKWAK」のHPをリニューアルし（URL：<https://ts-wakwak.com/>）充実させたほか「タウンスペースWAKWAK」Facebookページの更新にも努め、日々の活動を常に発信するなど広く情報発信に努めました。

### 4) メディア・新聞記事等への出演・掲載等

#### ①NHK かんさい熱視線「検証・神戸6歳児男児遺棄事件 なぜ命を救えなかったのか」

高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業の様子がNHK大阪放送局の取材を受け7月21日（金）NHKかんさい熱視線「検証・神戸6歳児男児遺棄事件 なぜ命を救えなかったのか」で放映されました。

<https://www.nhk.jp/p/osaka-nessisen/ts/X4X48GXNX2/episode/te/BQGW326XKW/>

#### ②NHK 青森あっぷるわいど「未就園児の虐待を防ぐには」

同じく高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業の様子がNHK青森放送局の取材を受け3月7日(木)NHK青森あっぷるわいど「未就園児の虐待を防ぐには」で放映されました。

<https://www.nhk.jp/p/ts/ZY3LK6QL7W/episode/te/66PWWRLP61/>

## 5) 受賞歴等

### ①中小企業者支援パートナー・ティグレ「上田卓三賞」受賞

起業・経営革新・社会貢献事業を応援するために中小企業者支援パートナー・ティグレが実施する「上田卓三賞」を受賞しました。選考結果では福祉事業部門で最優秀賞に選ばれました。

## 6) 経営・財務管理

持続的な活動を担保していくための経営計画と適切な財務管理を行うと共に、社会貢献事業を安定的に支えていくため、ファンドレイジング部門の創設と担当者の位置づけ、戦略策定を行いました。富田地区の視察の受け入れや講師派遣を積極的に行い事業収入の増加を図ったほか、2021年度から引き続き市域広域事業に対する休眠預金事業や高槻市の委託事業を受託、子ども家庭庁ひとり親等子どもの食事等支援事業の受託を行うなど財源の確保に取り組みました。また、関係のみなさまからご支援や応援をいただきました。

○2012年度決算(法人設立時)	7,973,202円
○2017年度決算	13,870,719円
○2018年度決算	17,202,945円
○2021年度決算	28,628,989円
○2022年度決算(前年度)	37,123,145円
○2023年度決算(今年度)	35,666,774円(剰余金1,067,597円)

## 7) 各種規程の制定について

休眠預金を活用した事業の採択に伴い、休眠預金等活用法指定団体である一般財団法人「日本民間公益活動連携機構(JANPIA)」の定める各種規程を制定(2020年3月理事会・社員総会議決)し法人ホームページに掲載するなど、情報公開を図るとともに透明性の確保に努めました。

(以下、整備している規程類)

- ・社員総会運営規程・理事会構成規程・理事会運営規程・役員報酬および費用規程・特定個人情報保護規程
- ・情報公開規程・文書管理規程・経理規程・倫理規定・コンプライアンス規程・リスク管理規程・公益通報者保護に関する規程・内部通報規程・理事の職務権限規程・監事監査規程・利益相反防止のための自己申告等に関する規程・事務局規程・人件費水準

## 8) 中期計画(2023-2025)の策定

当法人および地域支援全体の方向性を明確化しかつ多岐にわたるステークホルダー(関係者)と共有するため多様な関係機関との協議を経て「中期計画(2023-2025)」を策定し共有しました。

## II. 調査研究事業

富田エリア事業、市域広域事業等の実践を通じて得られた知見を他地域（全国）の課題解決に広く活かすべく論文執筆・投稿等を通じて発信しました。

### 1) 書籍の刊行

大阪大学大学院修士論文においてまとめた当法人による高槻富田地区および高槻市域全域の取り組みについて大幅にリライトし書籍化、明石書店より刊行しました。

書籍『ひとりぼっちのいない町 - 貧困・教育格差に取り組む大阪・高槻富田の実践に学ぶ - 』（明石書店）

・著書：岡本工介（当法人事務局長）

・解題：志水宏吉（大阪大学）

・本の帯：湯浅誠（認定NPO 法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ）

・本の紹介：被差別部落において発展したまちづくりの実践を、子どもの貧困等に対応するための、より広域の包摂支援として展開するためには？大阪・高槻富田を拠点に、社会運動性をコミュニティ・オーガナイズングに取り入れ、多セクター共創で「ひとりぼっちのいない町」づくりを行う一般社団法人 WAKWAK の実践を、アクションリサーチを通して論じる。

・コラム：地域関係者や学識者、学校関係者など 12 名の方にコラムを執筆いただきました。

[https://www.akashi.co.jp/book/b647349.html?fbclid=IwZXh0bgNhZWOCMTAAAR20\\_zqOi-HZ8\\_1iv5usUmHRrlxrMm10cWPTU8lzizVFGYAPc07TzVv--eI\\_aem\\_AfsIY13BNrZJt1YUb5JbxbLFxyNCN99nZ6Qx\\_SE-CzwLpbids7dUxup9vx94D0002zHk61kIEA0fI\\_E-\\_wGZzF25](https://www.akashi.co.jp/book/b647349.html?fbclid=IwZXh0bgNhZWOCMTAAAR20_zqOi-HZ8_1iv5usUmHRrlxrMm10cWPTU8lzizVFGYAPc07TzVv--eI_aem_AfsIY13BNrZJt1YUb5JbxbLFxyNCN99nZ6Qx_SE-CzwLpbids7dUxup9vx94D0002zHk61kIEA0fI_E-_wGZzF25)

### 2) 論文の執筆

関西大学人権問題研究室

当法人事務局長が委嘱研究員として所属する関西大学人権問題研究室の紀要論文において市域広域事業の取り組みをまとめ投稿しました。

	投稿誌名	タイトル	内容
1	「関西大学人権問題研究室」紀要 86 号	「居場所の包括連携による全国モデルづくりに向けたアクションリサーチ (2)」	市域広域事業「居場所の包括連携によるモデル地域づくり」の 2 か年目の実践について「社会運動性」にふれながら実践報告論文としてまとめました。
2	「関西大学人権問題研究室」紀要 87 号	「居場所の包括連携による全国モデルづくりに向けたアクションリサーチ (3)」	市域広域事業「居場所の包括連携によるモデル地域づくり」の 3 か年目の実践および 3 年間の実践を通して得られた知見やインプリケーションについて実践報告論文としてまとめました。

### 3) 学会発表など

#### ①厚労省・子ども家庭庁実践報告

2023年5月18日(木) 認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえからの依頼を頂き、厚労省・子ども家庭庁の方々へWAKWAKによる高槻市における「厚労省ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」の実践について実践報告をさせていただきました。

- ・日時：2023年5月18日(木) オンライン開催
- ・報告内容：「厚労省のひとり親等の子どもの食事等支援事業」、「厚労省支援対象児童等見守り強化事業(高槻市みまもりつながり訪問事業)」、「むすびえ休眠預金居場所の包括連携によるモデル地域づくり」の3事業を連動させた市域全域を対象とした官民連携による支援の仕組みについて発表。

#### ②日本地域福祉学会「第35回近畿地域福祉学会 兵庫大会」学会発表

日本地域福祉学会「第35回近畿地域福祉学会 兵庫大会」において「高槻市における官民連携による包摂型地域づくりの研究 - タウンスペース WAKWAK の事例より -」をテーマに学会発表を行いました。

- ・日時：2023年12月16日(土)
- ・場所：こうべ市民福祉交流センター
- ・学会テーマ：「地域福祉実践と住民自治との相互作用・相互変容を考える」
- ・報告内容：「高槻市における官民連携による包摂型地域づくりの研究 - タウンスペース WAKWAK の事例より -」

### 4) 共同研究・研究会・科研プロジェクト等への参加

#### 大阪大学との共創知を生み出す取り組み

富田地区および市域広域の実践および研究を深めるべく2019年にOOS協定を締結した大阪大学とコミュニティ再生事業や市域広域事業等に取り組み、その実践を報告書にまとめるなど共同研究を行いました。

※OOS(大阪大学オムニサイト)とは：「共創知」を生み出す場をテーマに産官社学連携により、共生社会を創造していくための新たな仕組みのこと。

### 5) 研究者による事業評価

休眠預金事業による事業評価のため大阪大学より3人の学識者および関西大学、同志社女子大学、平安女学院大学からも学識者を迎え事業評価会を開催し事業評価を行いました。

### 6) その他

富田地区、市域広域事業の研究を深めるべく大阪大学や近隣の大学の研究者や大学院生を富田地区の学校等へつなぐとともに協働実践・研究を行いました。

## Ⅲ. 協働交流事業

### 1) 市域全域包摂のネットワーク構築事業

これまで当法人では富田地区(四中校区)を対象に「ただいま～と言える子どもの居場所づくり」事業を立ち上げ、地域、学校、行政、企業、大学との連携のもと社会的不利を抱える子どもをはじめ校区に住む誰もが参加できる居場所づくりと家庭の包括支援を目指してきました。

2021年度これらの実績を踏まえ富田地区が長年培ってきた社会的不利を抱える子どもたちや住民の支援のノウハウを市域全域へと広げ市域に民と民、官と民の連携による包摂のネットワークを構築することに着手しました。

### ① 高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業（厚労省事業 支援対象児童等見守り強化事業）

高槻市が「支援対象児童等見守り強化事業」（厚労省）として行った「高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業」を2021年度・2022年度に引き続き受託し以下の事業を行いました。

#### ア. 業務の概要や実施体制

- ・業務内容：未就園児等（保育所・幼稚園等に通っていない原則2歳児から就学前の子ども）のいる家庭等を訪問し状況の把握や学習及び生活支援等を通じた子どもの見守りを実施する。
- ・実施期間：7月1日から2024年2月29日まで
- ・実施体制：事業管理者・訪問員として専門職（保育士、社会福祉士等）を配置
- ・担い手の発掘と育成：実施にあたり長年市立の保育所に従事してきた所長や副所長経験者などのベテラン保育士や市の社会教育委員、市民活動を担ってきたメンバー8名をメンターとして迎え、市内全域から子育て層（保育士等）33名の人材を発掘し総勢41名でアウトリーチ（家庭訪問）を実施しました。
- ・対象家庭568件（延訪問回数635件）

#### イ. 相談件数の種類と各件数

※個人情報保護のため詳細についての記載は省略

相談の種類	主な内容	件数
基本的な生活習慣の習得支援や学習および生活支援について	具体的には児童の発達や障がい、トイレトレーニングの方法など子どもの成長における悩み事への対応や保護者にとっての相談相手やその機関、協力者やサポート体制の有無など	29件
地域の様々な支援事業へのつながり	「つどいの広場」やホームスタートへのつなぎや訪問員による伴走支援、「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」との連携による「市内子ども食堂等の居場所の一覧マップ」の配布や紹介、厚労省ひとり親等の子どもの食事等支援事業と連動した支援パックの配布など	147件
訪問後支援について	コロナ禍で生まれた児童を育てているご家庭が多く、未だ保護者が家庭内で孤立していた状況から訪問員が傾聴すると思わず涙を流され子育ての悩みなどの話をされるなどしたことから、そのような様子から訪問後支援につながった事例が多くあった。	23件

#### ウ. 訪問員研修の実施

日付	研修名	参加人数
7月4日（火）	従事者の顔合わせ・事業概要の共有 担当：タウンスペース WAKWAK 事務局長 岡本工介	18名
7月4日（火）	「富田認定こども園」認定こども園・支援センターの地域での役割 講師：富田認定こども園 園長 橘川 美恵子さん	16名
7月7日（金）	「言葉が心配、発達が心配、と言われたら」-発達の相談について- 担当：北摂総合病院（小児科・心身症外来）臨床心理士 長澤華奈	17名

7月7日(金)	「高槻市の子育て支援施策」 講師：高槻市子育て総合支援センター職員 戸田さん・加茂さん	17名
7月11日(火)	「コミュニティーソーシャルワーカー」 講師：高槻市社会福祉協議会 地域共生推進課 小海 沙織さん	22名
7月11日(火)	「地域での子育てについて」 講師：特定非営利活動法人 NPO ぱれっと 漆原 由香利さん	22名
7月13日(木)	「絵本を通して」(アレンジバージョン) 講師：元高槻市立保育所所長 甲斐田美智子さん	20名
7月24日(月)	「実務者研修」(訪問に際して)① 講師：元高槻市立保育所所長・副所長 甲斐田美智子さん・磯部恵子さん	21名
7月24日(月)	「実務者研修」実施報告書の書き方、個人情報について② 講師：元高槻市立保育所所長・副所長 甲斐田美智子さん・磯部恵子さん	21名
9月26日(火)	「訪問してみたの振り返り研修」① 講師：元高槻市子育て総合支援センター副主幹 田村みどりさん	30名
9月26日(火)	「訪問してみたの振り返り研修」(ケースの共有及び対応方法)② 講師：元高槻市子育て総合支援センター副主幹 田村みどりさん	25名

#### 個人情報保護にかかる研修の実施状況

日付	研修名	参加人数
7月24日(月)	「実務者研修」実施報告書の書き方、個人情報について② 講師：元高槻市立保育所所長・副所長 甲斐田美智子さん・磯部恵子さん	21名
9月26日(火)	「訪問してみたの振り返り研修」(ケースの共有及び対応方法)② 講師：元高槻市子育て総合支援センター副主幹 田村みどりさん	25名

その他特記事項：新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点からの研修は対面およびオンライン（ZOOM）のハイブリッド形式で行ったほか、欠席者については動画配信にて研修内容の共有を徹底。なお、上記の参加人数は当日の参加者の人数であり、動画配信は含んでいません。

## ② 休眠預金通常事業「居場所の包括連携によるモデル地域づくり（全国）」

認定 NPO 法人全国子ども食堂支援センター・むすびえが資金分配団体として行う「居場所の包括連携によるモデル地域づくり（全国）」の財源をもとに高槻市域に地域の居場所の民・民連携、行政との官・民連携による包摂のネットワークを構築するため以下の事業を実施しました。

### ア. 事業の概要

・事業概要：高槻市の市域全域を対象とした「つながる・食べる・学ぶ・生活を支える」をキーワードにした①第三の居場所のネットワーキング、②フードパントリー、③学習支援、④大学、元保育所 OG 等と連携した専門職・担い手の育成と高槻市が今年度から実施する「子どもみまもり・つながり訪問事業（支援対象児童等見守り強化事業）」を並行して実施することで高槻市域に民と民、官と民の連携による面（セーフティネット）を構築する。また、実践を通して得られた知見を大学等との協働の中で「共創知」としてまとめ日本全国に発信する。これら多セクターとの共創により社会システム全体の変容（広域包摂的なみまもり・つながり構築）を生み出す。

・実施期間：2021年6月から2024年3月まで

### イ. 地域から広がる第三の居場所ネットワークの開催

2021年11月20日（土）にアクションネットワークを発足、回を重ねながら名称や方向性等を決め、通算で14回会を開催しました。当初の予想20団体を大きく上回る82団体、150名の参画（2024年3月31日時点）を得ることができました。また、分野も地域の諸団体や支援団体をはじめ学校、大学、企業、宗教関係、医療関係に至るまで分野を超えた包括的なネットワークを築くことができました。

#### i. (アクションネットワーク参加者の内訳)

※2023年3月31日時点

セクター分類	団体数（団体）	参加人数（名）
市民活動団体	44	88
企業	8	14
大学・学校	5	19
宗教関係	4	6
医療関係	4	6
個人	17	17（うちオブザーバー3）
合計	82団体	150名

#### ii. ネットワークの趣旨、機能、方向性等

名称：「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」	
趣旨	高槻市内において子ども分野をはじめ多様な活動を行う団体、企業、大学、学校、行政、個人等の関係者が一同に会し、顔を合わせ、情報交流をする中でゆるやかなネットワークを築く。
会の3つの機能	①ネットワーク間の顔がつながる ②情報交流と助け合い ③支援構築に向けたアクション
会の方向性	①「民」（民間だからできるアクションを進めながら将来的には「官庁」（行政ほか）とも協働する。 ②コロナ禍、緊急性の高い社会的不利層への支援からはじめ様々な層へ広げる。 ③子ども分野からはじめ障がい、高齢、外国人支援分野等へ広げる。（包括的な支援）
具体的な動き	①団体さん同士それぞれの動き ヒト・モノの交流や協働等 ②事務局主導の支援構築の実践

#### iii. 地域から広がる第三の居場所アクションネットワークの開催

	日時	場所 形式	参加者数	内容
第11回	5月27日（土） 10時～12時	対面・ZOOM	29名	ネットワーク団体さんそれぞれの動き 今年度の総括 今年度の総括と今後に向けて
第12回	9月16日（土） 10時～12時	対面・ZOOM	25名	ネットワーク団体さんそれぞれの動き 事務局による支援構築の動き
第13回	12月2日（土）	対面・ZOOM	20名	ネットワーク団体さんそれぞれの動き

	10時～12時			今年を振り返って一言でいうなら事務局による支援構築の動き
第14回	2月17日(土) 10時～12時	対面・ZOOM	25名	ネットワーク団体さんそれぞれの動き 3年間の活動を振り返って

#### ウ. フードパントリーサテライトの実施

食の支援については当初2か年目の構想であったが、新型コロナ禍において社会的不利を抱える層により不利がかかり食の支援の必要性が増大していることから富田エリアを含む市内の3か所(公営住宅を含む困窮層が多いエリアにおいて先行実施)においてフードパントリーサテライトを構築し各地域の民生委員やNPOの代表等およびネットワークでつながった団体とコラボし支援の食支援を行いました。

##### i. フードパントリーサテライト(高槻つばめ学習会)

- ・日時：2022年1月29日(土)より毎月開催(2023年度12回開催)
- ・実施主体：高槻つばめ学習会・グーグー藤カレー・天然酵母パンなかむら・タウンスペース WAKWAK
- ・配布数：34食/回

##### ii. フードパントリーサテライト(七中校区)

- ・日時：2022年1月26日(水)より毎週開催(2023年度48回開催)
- ・実施主体：キヨサキあーちゃん食堂×のりまきのすけ・味源・タウンスペース WAKWAK
- ・配布数：73食/回

##### iii. フードパントリーサテライト(十中校区)

桜台小学校区で活動を行うしらかわ・いもとクリニックなどと新規拠点づくりに向けて協議を行い、新たに桜台子ども食堂をはじめ校区に6か所の子どもの居場所が開設されました。

#### エ. 校区包括支援ネットワークの構築

富田エリアにおいて行ってきた関係機関が連携して子どもから高齢者を支えるネットワークを他校区にも広げるべく、2023年度はモデル校区を定め、北エリアはNPO法人三島子ども文化ステーション、南エリアは桜台エリアにおけるネットワーク構築と活性化の伴走支援を行いました。

#### オ. 企業との協働による食支援の構築

食支援を市域全域に広げるべく地元企業「株式会社ミートモリタ屋」「株式会社彩」「株式会社甲和ビルドふくろうのおうち」「テニスガーデン高槻」「株式会社宮田運輸」からご支援を頂き、市内全域の子どもを対象に食支援を実施する団体(子ども食堂に限らない)に食材やデザート等の提供および運輸を実施しました。

- ・実施時期：2022年11月支援開始～2023年10月
- ・企業からの支援内容：カレーの食材やちらし寿司、デザート等の提供
- ・提供数：各子ども食堂等の対象人数に合わせ20食～60食
- ・提供数合計：1,138食

#### カ. 第三の居場所応援キャンペーン2023

企業からの「市内の子どもたちへの食支援をさらに広げること」を目的として、また、個人のみなさま

からは「市内のこどもたちを応援したい」という想いを市内団体への応援（1万/拠点）キャンペーンとして実施しました。

#### ◆キャンペーン①：企業さまからの応援をこどもたちへ！（採択6団体）

※「株式会社宮田運輸」さま「株式会社甲和ビルドふくろうのおうち」さま「テニsgガーデン高槻」さまよりいただいた応援金を活用しました。

食材や食品の購入のみ可。子ども食堂に限らず、フードパントリーやイベントも対象。調理のための食材をはじめ、お菓子やジュース、調味料、保存食、ケーキなども想定しました。

応募団体（提供場所）	提供内容
子ども食堂等、地域の居場所：3か所	・バレンタインイベントのためのスイーツ ・子どもたちへの食支援 ・食材購入の補助
フリースクール：1か所	・昼食や調理実習の材料費
学習支援：2か所	・活動中のお菓子の提供 ・中3生受験勉強の昼食提供

#### ◆キャンペーン②：個人さまからの応援をこどもたちへ！（採択10団体）

※個人さまよりいただいたご寄付を活用しました。

子どもたちのために使用されるものであれば内容は自由。学習のための文具、居場所で使用するおもちゃやカードゲーム、本や漫画、イベントで使用する景品などを想定しました。

応募団体（提供場所）	提供内容
文庫活動：2か所	・本やマンガ、ボードゲーム等 ・本棚（環境整備）
子育て支援、民間学童保育：3か所	・楽器、絵本 ・バランスボール、遊び道具他 ・バランスボール、ボードゲーム他
フリースクール：1か所	・ボードゲーム他
子ども食堂等：2か所	・サッカーゴール ・訪問家庭へ衣類やおもちゃ等
教育プログラム、体験学習：2か所	・救命訓練機材 ・地域の学校等に提供する絵本

#### キ. 学識者等事業評価の実施

学識者として関わる大学の研究者による事業評価会議を以下のとおり実施し事業の評価及び社会的意義について検討、その結果を論文等にまとめ知見として発信しました。

- ・日時：2月20日（月）13時～15時
- ・形式：オンライン（ZOOM）
- ・メンバー：
  - ・研究者：志水宏吉さん（大阪大学教授）、高田一宏さん（大阪大学教授）、若槻健さん（関西大学教授）、内田龍史さん（関西大学教授）、相楽典子さん（平安女学院大学准教授）、今井貴代子さん（大阪大学 SSI 特任助教）
  - ・WAKWAK 事務局

## ク. 実践報告会・記念講演会の実施

3か年にわたり認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえの休眠預金を活用した事業の報告の場として実践報告会を開催しました。

- ・日時：3月23日（土）14時～16時半
- ・場所：大阪府高槻市高槻城公園 芸術文化劇場 ※オンライン（ZOOM ウェビナー）
- ・内容：第1部 居場所の包括連携によるモデル地域づくり実践報告  
第2部 特別記念講演「助けてと言えるまち 一人ひとりにしないという支援」  
講師：奥田知志さん（NPO法人抱樸理事長）
- ・参加者：200名
- ・共催：一般社団法人タウンスペース WAKWAK、高槻市市民公益活動サポートセンター
- ・協力：ジャトー株式会社【JATO】
- ・後援：高槻市

## ③子ども家庭庁ひとり親等の子どもの食事等支援事業

新型コロナ禍、ひとり親家庭をはじめ様々な社会的不利を抱える家庭に支援が必要とされる中、子ども家庭庁が緊急支援事業として行った「ひとり親等の子どもの食事等支援事業」について、分配団体認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえから受託、実施しました。

### ア. 子ども家庭庁事業目的

新型コロナウイルス感染症の影響等により困窮するひとり親家庭を始めとした、要支援世帯の子ども等を対象に、食事や食品・食材、学用品、生活必需品の提供を行う子ども食堂や子ども宅食、フードパントリー等を実施する事業者に対して、広域的に運営支援、物資支援等の支援を行う民間団体の取組を支援することにより、子どもの貧困や孤独・孤立への緊急的な支援を行うことを目的とする。

### イ. 当法人申請事業概要

#### 「要支援家庭の声なきSOSを発見し、地域支援の循環につなぐ事業」

・事業概要：コロナ禍で困窮する世帯の多いひとり親家庭や生活困窮家庭、福祉の援助が届きにくい家庭、海外ルーツの家庭など地域社会の中で制度から取りこぼれやすかつ社会的不利を被りやすい子どもを支援するため高槻市域全域（人口35万）を対象に①ひとり親家庭や生活困窮家庭等が多く集住する公営住宅がある5エリアおよび②厚労省事業支援対象児童等見守り強化事業のアウトリーチを通して見えてきた要支援家庭を対象に生活支援（食支援、生活必需品配布）および学びの支援（学用品、文具類配布）活動を行う。また、各エリアごとで活動する子ども食堂運営者や地域・学校関係者と協働し実施することで当助成後も各地域において支援の継続性や地域支援の循環につなげることを目的とする。

### ウ. 事業実施内容

実施年月日 実施期間	実施内容
	ひとり親家庭等をはじめ支援が行き届きにくい層へ支援を確実に届けるため以下の3つのアプローチから緊急支援を実施した。「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」に呼びかけ、①ひとり親家庭および生活困窮家庭等が集住する市内の公営住宅5エリアを拠点に、そのエリアで活動する子ども食堂運営者団体や地

	<p>域・学校関係者と協働した食材・学用品配布、②ネットワーク各団体へひとり親世帯等の対象者をヒアリングし必要数を配布、③厚労省支援対象児童等見守り強化事業のアウトリーチを通して①生活支援（食材配布）、②学びの支援（学用品、文具類配布）を下記のとおり実施しました。</p> <p>今期は当事業に賛同いただいた高槻市内の浄土真宗 17 カ寺による「ほっとけ米プロジェクト」としてお米 6 合×350 セットの支援があり、これらを合わせて支援を行いました。</p> <p>・子ども食堂等の実施個所数（18 箇所）、実施回数 計 71 回（アウトリーチ含む）、①生活支援（食材配布 428 セット）、②学びの支援（学用品 355 セット、文具類 355 セット配布）</p> <p>※なお、食材配布については家族数や要支援状況に合わせ適宜詰め合わせ数を調整したため発注数と以下の配布数は同一ではない。</p> <p>（公営住宅対象）※以下、食材および学用品、文具類を配布</p> <p>12 月 6 日 ・キヨサキあーちゃん食堂（場所：柱本小学校前電気屋 対象：柱本団地 1, 160 戸 食材 55 セット、学用品 20 セット・文具類 20 セット</p> <p>12 月 14 日および 1 月 19 日 ・羊会子ども食堂（場所：西教寺ほか 対象：春日住宅および深沢住宅 1, 002 戸ほか 3 か所 食材 70 セット・学用品 110 セット・文具類 110 セット</p> <p>12 月 14 日 ・えん食堂つむぎ（場所：西法寺 対象：天川住宅 664 戸 食材 30 セット・学用品 17 セット・文具類 17 セット、ほっとけ米 17 セット</p> <p>12 月 10 日 ・桜台エリアネットワーク〈マサミ子ども食堂ほか 5 団体〉（場所：ナーシングホーム「みらいのいろ」対象：下田部団地 1, 406 戸ほか 食材 80 セット・学用品 60 セット・文具類 60 セット</p> <p>12 月 13 日 ・のりまきのすけ子ども食堂（場所：川添商店街 対象：芝生団地 1, 336 戸 食材 15 セット・学用品 15 セット・文具類 15 セット</p> <p>11 月 28 日 ・富田ただいま食堂（場所：コミュニティスペース NikoNiko・対象：富寿栄団地 508 戸 食材 50 セット・学用品 50 セット・文具類 50 セット</p> <p>（ひとり親世帯等対象）食材および学用品、文具類を各団体へ運搬し必要家庭に配布</p> <p>12 月 14 日 ・高槻つばめ学習会（場所：城内公民館 対象：ひとり親家庭等 食材 35 セット・学用品 15 セット・文具類 15 セット・ほっとけ米 15 セット）</p> <p>・NPO 法人はらいふ（場所：はらいふ事務所 対象：ひとり親家庭等 食材 20 セット・学用品 3 セット・文具類 3 セット）</p> <p>・NPO 法人地域ひといき（場所：大塚わくわく園 対象：ひとり親家庭等 食材 10 セット・学用品 7 セット・文具類 7 セット）</p> <p>・NPO 法人 SEAN（場所：SEAN 事務所 対象：ひとり親家庭等 食材 10 セット・学用品 5 セット・文具類 5 セット）</p> <p>（厚労省支援対象児童等見守り強化事業）</p> <p>2023 年 10 月～2024 年 1 月 31 日 随時 ・当法人が受託している厚労省支援対象児童等見守り強化事業にてアウトリーチ（680 件）を行う際に高槻市と連携し、要保護児童をはじめ支援が必要な家庭に生活必需品、学用品、文具類のセットの配布を行った。食材 53 セット・学用品 53 セット・文具類 53 セット）</p>
--	---

## 2) 政策提言に向けた動き

「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」の構築や事業実践と並行して、これらの実践を「公助」にもつないでいくため、高槻市議会の議長・副議長をはじめとする17名の議員のみなさまへ個別ロビー活動を行い当事業の説明や協力依頼を行いました。

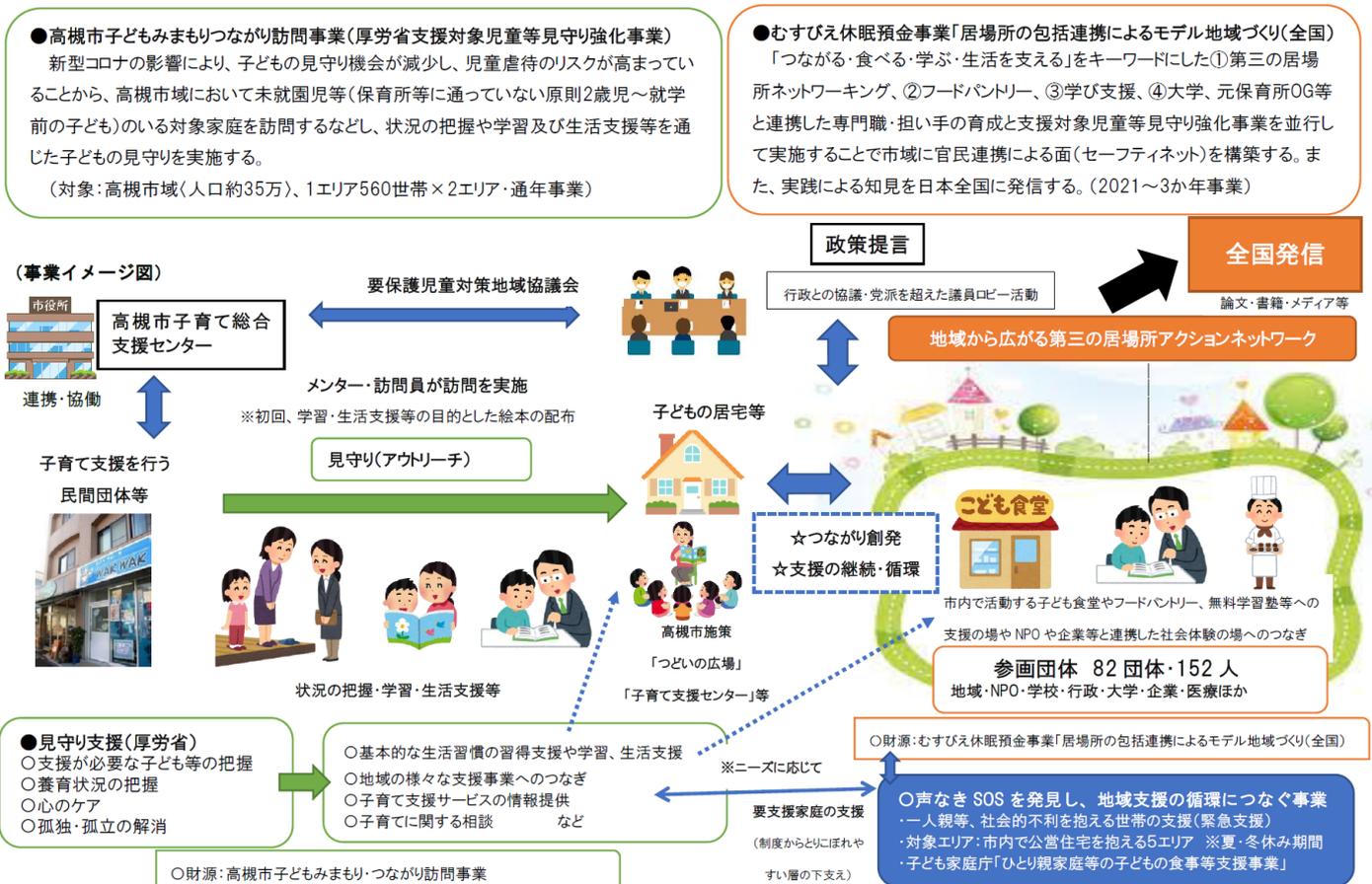
2022年6月議会において1名の議員から「子ども食堂について」の質問をいただき、高槻市における子ども食堂支援の状況と今後について、子ども食堂の意義、地域における連携の必要性について質問いただきました。これら関係者の尽力もあり、高槻市における子ども食堂補助金制度の要件緩和がなされ、補助金活用団体は初年度1団体(当法人のみ)だったものが2022年度は11団体が申請、活用につながりました。また、2023年度も引き続き党派を超えた多数の議員の皆様へ個別ロビー活動や活動報告などを行いました。

## 3) 市域全域包摂のネットワーク構築事業を通じた成果

「高槻市子どもみまもりつながり訪問事業(厚労省支援対象児童等見守り強化事業)」、「居場所の包括連携によるモデル地域づくり(全国)」、「厚労省・こども家庭庁ひとり親等の子どもの食事等支援事業」の3事業を通して、以下(図解)の仕組みを市域全域を対象に官民連携の仕組みとして構築しました。

### ① (図解) 高槻市域における官民連携による居場所の包括連携

(高槻市域における官民連携による居場所の包括連携(厚労省支援対象児童等見守り強化事業×むすびえ休眠預金事業×厚労省ひとり親等支援事業)2023 イメージ図)



## ②社会的インパクトの集計〈数量〉

項目	内容	通算 (2021年度-2023年度)
ネットワーク団体数	「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」	82 団体・152 名
アウトリーチ件数	高槻市子どもみまもりつながり訪問事業	アウトリーチ件数 計 1,398 件 (対応 1,513 件)
食の動き	・フードパントリー ・企業による子ども食堂食材支援 ・厚労省「ひとり親等の子どもの食事等支援事業」	食数合計 21,571 食 (6 トン 696 kg)
学びの支援実施	学びの支援の実施	15 世帯
物資による支援	・子ども家庭庁「ひとり親等の子どもの食事等支援事業」※日用品・学用品の配布	日用品 355 セット (426kg) 学用品 355 セット (177kg)
新たな社会資源創設	市内における子ども食堂等の開設等	14 件
地域支援に携わる人材	・ベテラン保育士 ・子育て層 ・大学生 ・ESD 実施校	のべ 35 名 のべ 105 名 のべ 82 名 5 校
当地区の支援モデルおよび知見の発信 (地域内外への機関紙や報告書の配布数および論文投稿・書籍刊行など)	・機関紙発行 ・報告書発行 ・論文投稿 ・書籍発行 ・講演・視察受入 ・メディア放映 ・学会発表 ・その他 (学会賞受賞)	12 回 3 件 4 本 2 冊 94 件 2 件 1 件 1 件

### 4) 子ども食堂の応援を通じた小地域包括支援ネットワークづくり事業「わくわく基金」の創設

市域全域に対するネットワーク化「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」(市域単位での民と民、官と民の連携)と並行して、小地域単位(小・中学校区)のセクターを超えた包括支援ネットワークの構築を活性化するため「むすびえ子ども食堂基金」を受託し助成事業「わくわく基金」を創設しました。また、学識者等による審査会を開催し、市内で活動する5団体を採択しました。

#### ①事業目的

当事業を通じ実現化したいのは各地域単位(小学校区単位)での子ども食堂運営団体・地縁組織・学校・企業等の包括支援の仕組み(モデル)づくりとそれを支える各地域でのキーマン発掘・ハブとなる団体育成、持続可能な仕組みの構築である。当事業の申請はそれらの動きに助成事業というスキームを通じてドライブをかけ、市域全域に包摂モデルを広げることが目的である。

#### ②事業期間

2023年12月1日～2024年11月30日

#### ③2023年度事業経過

- ・2023年12月：法人内に当事業のプロジェクトの立ち上げと準備、助成事業選定委員への打診・打ち合わせ

- ・2024年1月：学識者、弁護士等による助成事業選定委員会の発足
- ・2月1日 わくわく基金募集要項公開
- ・2月5日：助成事業募集開始（2024年2月5日(月)～2月19日(月)17:00必着)
- ・2月8日(木) オンライン説明会開催（10団体が参加）
- ・2月19日(月) 募集締め切り（8団体が申請）
- ・2月中旬～：助成事業第1次審査（書類選考）、2次選考（事務局ヒアリング）
- ・3月11日(月)：最終選考（選定委員会、法人代表理事による助成先決定）採択団体5団体
  - 審査委員長 三木正博（地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク座長）
  - 審査委員 新谷龍太郎（同志社女子大学現代社会学部現代こども学科 准教授）
  - 審査委員 今井貴代子（大阪大学社会ソリューションイニシアティブ 招聘教員）
- ・4月1日～ 採択団体5団体活動開始

## 5)大阪府子ども食堂ネットワークの構築

中間支援の新たな動きとして2022年度に携わった大阪府域を対象とした大阪府子ども食堂ネットワークの運営に協力しました。ここでは、産官民学が共創するネットワークの立ち上げと定着化をめざし大阪大学とともに協働事務局を担いました。また、大阪府や大阪府社会福祉協議会などをはじめとする自治体や社協、中間支援団体等で構成される世話人と協議を重ね連絡会を運営しました。

## 6) ネットワーク構築、他団体との協働

WAKWAKが実施する各事業において、地域社会とのネットワーク構築、市民活動団体相互および市民・事業者・行政との連携、協働促進事業について以下のとおり実施しました。

### ① さにすば夏祭り

日時：7月22日(土) 午前10時～午後3時

場所：知的障がい者福祉事業所サニースポット

### ② 富田富寿栄盆踊り大会

日時 9月2日(日) 午後5時～午後9時

場所 三角公園

来場参加数：1,600名

### ③ NPO協働フェスタ

日時 9月10日(日) 午前10時～午後3時

場所 高槻市生涯学習センター

### ④ フェスタ・ヒューマンライツ

日時：12月3日(日) 午前10時～午後1時

### ⑤その他

ア. 富田まち・くらしづくりネットワークおよび富田地域包括支援センター/コミュニテイケア会議、富田富寿栄連合自治会諸活動への参加を通して、地域福祉やまちづくり運動への参加と連携を図りました。

イ. 市民公益活動サポートセンターの諸活動への参加を通して、市内NPO団体等との連携を図りました。

## IV. 新たな福祉と人権・協働のまちづくり事業

### 1) 地域福祉グランドデザインづくり事業

#### ①未来にわたり住み続けたいまち高槻富田地区コミュニティ再生事業

・趣旨：高槻市による市営住宅の建て替えをはじめ「富田地区まちづくり基本構想」の流れに並行して、2019年に当法人として未来にわたり住み続けたいまち高槻富田地区コミュニティ再生事業を立ち上げました。2019年度はフェーズ1「市営住宅の建て替えに多様な層の声を届ける」事業を実施し、2021年度は引き続きフェーズ2「長期的なコミュニティの再生」を目的に地域・家庭・学校・行政・大学・企業等多セクターとの共創の仕組みとして「富田地区インクルーシブ・コミュニティ・プロジェクト」を立ち上げ、プロジェクト1「コミュニティ・スペースの創出」とプロジェクト2「教育コミュニティづくり」の2つのプロジェクトに取り組みました。

高槻市の施策においては、2021年度末をめどに公共施設再配置および小中一貫校設置を柱とする「富田地区まちづくり基本構想」策定をめざしていましたが、富田小地域を候補地とする構想案への部落差別を背景とした反対運動により小中一貫校設置構想は凍結となりました。結果、「富田地区まちづくり構想」は2022年5月に公共施設再配置を柱とした構想として策定されました。

一方、富寿栄住宅建替え事業については2022年12月に第一期工事の本格着工に至り、2023年9月には第一期入居（91戸）が実施されました。

これらの動きに合わせ2023年度はWAM助成を受託し「子どもから高齢者までの切れ目のない支援事業」を新たに創設し地域の様々な担い手の発掘と多岐にわたる事業をチャレンジングに実施しました。

#### ア. 多セクターとの共創の仕組みとしてインクルーシブコミュニティプロジェクトの立ち上げ

当法人が協働を行ってきた多セクターへ呼びかけ地域関係者、学校関係者、大学関係者（研究者、大学院生・学部生）等によるプロジェクトを発足し多セクターによる社会課題解決のプラットフォームを生み出しました。

（富田地区インクルーシブ・コミュニティ・プロジェクトの構成・参画団体）

セクター	参画団体等
座長	大阪大学大学院人間科学研究科 教授 志水 宏吉
学識者	大阪大学大学院人間科学研究科 教授 渥美 公秀 大阪大学大学院人間科学研究科 教授 高田 一宏 大阪大学社会 SSI 特任助教 今井 貴代子 関西大学文学部 教授 若槻 健 関西大学社会学部 教授 内田 龍史 同志社女子大学 准教授 新谷 龍太郎 平安女学院大学 助教 相楽 典子 京都女子大学 教授 岩槻 知也 大阪教育大学 特任准教授 齋藤 直子
弁護士	NPO 法人子どもセンターぬっく 代表 森本 志磨子
○地 域	富田支部、富田まちづくりネットワーク、富寿栄老人会、社会福祉法人つながり、民生委員・児童委員
○大 学	大阪大学、関西大学、平安女学院大学 大阪大学人間科学研究科志水宏吉ゼミ、高田一宏ゼミの大学院生
○企 業	阪急阪神ホールディングス株式会社、JATO 株式会社
○学校	高槻市立第四中学校・赤大路小学校・富田小学校 ※学校による総合的な学習の時間「いとみらい科」の協働

○オブザーバー	認定 NPO 法人全国子ども食堂支援センターむすびえ
○事務局	一般社団法人タウンスペース WAKWAK

(プロジェクト会議)

	日時	場所 形式	参加者数	内容
第 1 回	6 月 20 日 (火) 16 時半～18 時	ZOOM	22 名	顔合わせ・自己紹介 昨年度事業報告 富田エリア事業・市域エリア事業の方向性
第 2 回	11 月 6 日 (月) 16 時半～18 時	ZOOM	24 名	プロジェクト新メンバー紹介 プロジェクト進捗状況 (事業中間報告) 下半期事業の方向性について 事業評価・意見交流
第 3 回	2 月 26 日 (月) 16 時半～18 時	ZOOM	20 名	プロジェクト報告 (2023 年度事業) 事業総括 (評価・意見交流) 次年度以降のプロジェクトの方向性

## イ. A 棟自治会への支援

2023 年 9 月富田富寿栄住宅 A 棟が完成し、9 月中に入居者の引っ越しを終えました。

これに伴い、住民自治の仕組みを再生するため当法人が伴走し自治会の担い手の発掘や自治会の設立支援を行いました。自治会役員が中心となってより良い住環境を守るためにゴミの出し方やゴミ置き場の清掃を意識し、安心安全に暮らしていけるように活動するための運営支援を行い、タウンスペース WAKWAK と事務受託契約を結び活動を進めてきました。A 棟自治会については 90 世帯全員の自治会入会と会費徴収が実現しました。

### i. 富田富寿栄住宅 A 棟自治会設立総会開催

- ・日時：10 月 14 日および 3 月 30 日 (2024 年度総会)
- ・場所：富田ふれあい文化センター2 階研修室
- ・総会出席：10 月 14 日 42 世帯・3 月 30 日 36 世帯

### ii. 役員・班長会議の開催

自治会役員・班長は毎月 1 回会議を開催し、住民のゴミ問題や自治会に関わる問題について話し合う場を持ちました。(2023 年 11 月～2024 年 3 月まで実施回数 5 回 参加人数合計 70 名)

### iii. A 棟入居者一斉お掃除大作戦

住民協力のもと、住宅入口広場や各階の階段、エレベータ内を一斉に清掃活動を行いました。

- ・日時：11 月 26 日 (日)
- ・参加人数：49 世帯

## ②子どもから高齢者までの切れ目のない支援を生み出す事業

富田地区のハード面が大きく変わっていくことと並行し、ソフト面を充実するため WAM 助成を受託し「子どもから高齢者までの切れ目のない支援事業」を新たに創設し地域の様々な担い手の発掘と多岐にわたる事業をチャレンジングに実施しました。

## ア. 申請事業概要

子どもから高齢者までの切れ目ない支援を生み出すことを目的に、地縁組織から大学生までの多様な担い手と協働し既存事業の活性化、新規事業を創設し、子どもから高齢者までの一連の支援を生み出す。また、地縁組織、学校、行政、企業、大学等多セクターによるネットワーク化を行い、多様な分野の支援団体との相互連携や社会的不利を抱える層の包括支援を行うことで、民と民、官と民による誰も取りこぼさない地域を生み出す。また、並行して行政との連携により制度へつなぐことで官民連携の仕組みを創設。これら実践を通じて得られた知見を大学等との協働研究により明らかにし、かつメディア等を通じて広く他地域へと波及する。

## イ. 事業実施内容

### i. 子どもの居場所づくり

- ・目的・内容：これまでケア付き食堂として生活困窮をはじめ福祉的なケアが必要な子どもたちを対象に行ってきた子ども食堂（新型コロナにより休止）を子どもたちの自立の観点から、子どもたちも料理をつくり、食を共にする事業および学習支援へとリニューアルして実施しました。また、地域の文庫主催者や子育て層のボランティアに中心となっただき、ハロウィンやクリスマス会、六年生送る会など不定期でさまざまな文化に触れるイベントも開催しました。
- ・日時および回数：週1（5月10日開始～3月末）土曜日不定期開催、年48回
- ・場所：コミュニティスペース NikoNiko
- ・対象者：第四中学校区の小中学生
- ・参加人数：延べ人数705人、実人数20人
- ・協力：風の子文庫

### ii. 子育てサークル

- ・目的・内容：地域の子育て層を対象に発達障がい悩みや子育ての困りごとなどをともに分かち合える場をつくり文庫主宰者等の女性が中心となって子育て層を対象に読み聞かせや文庫活動を行いました。
- ・日時および回数：週1（5月10日開始～3月末）開催、年45回
- ・場所：コミュニティスペース NikoNiko
- ・対象者：地域に住む子育て層
- ・参加人数：①保護者（子育て層）延べ405人、実人数10人 ②就学前の子ども延べ172人、実人数4人
- ・協力：風の子文庫

### iii. 「高齢者見守り事業」（高齢者）

- ・目的・内容：主に市営住宅の独居高齢者を対象に地域内での孤独化や孤立（孤独死）を防ぎ、生きがいと出番をもって生活できるよう地元老人会と協働し、定例会及び季節ごとの交流会、見守り活動を行いました。
- ・日時および回数：定例会：毎月1回、12回、交流会：5日、見守り：152件
- ・場所：コミュニティスペース NikoNiko ほか
- ・対象者：おもに市営住宅に住む高齢者
- ・参加人数：定例会：延べ96人・実人数8人、○交流会延べ204人、実人数70人、見守り：152件
- ・協力：富寿栄老人会

#### iv. 「わくわく広場」(大学生)

- ・目的・内容：将来、教員や福祉職等をめざす大学生が主体となって小学生を対象にしたイベントを企画し、実施する中で対人援助職としての実践経験を積み、さまざまな背景を持つ子どもたちに寄り添うためのノウハウを学ぶことを目的に対人援助職の研修や大学生が主体となって小学生を対象にしたイベントを企画・運営しました。
- ・日時および回数：研修 2 回および実践 2 回
- ・場所：①研修：コミュニティスペース NikoNiko（富田町）  
②実践：市内の児童養護施設（聖ヨハネ学園）および富田町にある公園
- ・対象者：将来、教員や福祉職等をめざす大学生
- ・参加人数：学生：延べ人数 48 人・実人数 12 人  
小学生：延べ 23 人、実人数 23 人 ※就学前の児童も参加
- ・協力：近隣の大学

#### v. 「わくわく World」(海外ルーツ)

- ・目的・内容：海外留学生との交流を通じて、子ども達が海外ルーツの人に対する理解や交流を促進することを目的に大阪大学と連携し、海外留学生と子どもたちがイベントを通して交流する場をつくりました。国籍として、インド、中国、ベトナム、インドネシア、マレーシア、オランダ、フィジー、フランスなど多様な留学生が参加し、また、イベントごとの料理もそれぞれの国にちなんだ料理をつくるなど子どもたちが多様な文化に触れる体験を行いました。
- ・日時および回数：年に 4 回（6/18・10/28・12/18・2/10）
- ・場所：コミュニティスペース NikoNiko
- ・対象者：留学生、大学生、小学生、就学前
- ・参加人数：留学生のべ 24 人・実人数 6 人、大学生延べ 16 人・実人数 4 人  
就学前・小学生および保護者のべ 72 人・実人数 18 人
- ・協力：大阪大学

#### vi. 生活応援支援（全住民・要支援者）

- ・目的・内容：市営住宅における生活困窮家庭等の要支援者を対象に緊急食糧支援を行い、生活応援を行う。また、要支援者のリストアップおよび状況把握を行い支援の継続につなぐことを目的に食料等の配布と要支援者のリストアップ・状況把握を行いました。
- ・日時および回数：年 6 回 7 日間（5/28・7/25・26・11/28・12/23・1/20・3/31）
- ・場所：富寿栄西公園、富寿栄 A 棟エントランス、タウンスペース WAKWAK 事務所
- ・対象者：市営住宅住民
- ・参加人数：のべ 632 人・実人数 55 世帯
- ・配布量：616kg
- ・協力：富田まち・くらしづくりネットワーク、解放同盟富田支部、富寿栄連合自治会、富寿栄老人会、富寿栄住宅入居者委員会、社会福祉法人つながり、タウンスペース WAKWAK の 7 団体

#### vii. まなびカフェ（全住民）

- ・目的・内容：地域住民及び学校・施設関係者が様々な社会課題について学びや理解を深めることを目的に

様々な社会課題についてカフェ形式で学ぶ講座の開催を行いました。

- ・日時および回数：4回（7/26・3/14・3/25・3/27）
- ・場所：コミュニティスペース NikoNiko・富田青少年交流センター
- ・対象者：①7/26 富田小学校・赤大路小学校・第四中学校の教職員  
②3/14 当法人の事業に携わる子育て層のボランティア  
③3/25・27 一般（学生・学校関係者・住民まで）
- ・参加人数：合計のべ117人・実人数93人

#### viii. ワンストップ相談支援（CSW事業）（全住民・要支援者）

- ・目的・内容：子どもから高齢者までの困りごとをワンストップで解決する仕組みを構築することを目的に従来の当法人におけるワンストップ相談に加え、市営住宅の建替後の移転等により家賃、引っ越し、生活の変化による不安や困りごとに対応するため緊急支援事業と連動して相談会を開催しました。
- ・日時および回数：①随時実施、②年6回7日間
- ・場所：①タウンスペース WAKWAK 事務所、②出張相談会：富寿栄西公園、富寿栄 A 棟エントランス
- ・対象者：全住民
- ・相談件数：①相談件数：284件 ②相談件数：42件

## 2) 生きがいと居場所づくり事業

### ①ボードレスアート事業

#### ア. ボードレスアート教室「わんだーぼっくす」の開催

- ・日時および受講者数：前期開講：5月～10月（8月は休み）の月2回 6名受講  
後期開講：11月～3月の月2回 9名受講
- ・場所：青少年交流センター2Fレッスンルーム
- ・後援：高槻市・市教育員会、高槻市社会福祉協議会、社福つながり・つながり後援会

#### イ. Takatsuki Art Challenge展への出展協力

- ・日時：7月14日（金）～17日（月・祭）
- ・場所：高槻市安満遺跡公園
- ・来場者数：1,200人
- ・主催：高槻市・公益財団法人高槻市文化スポーツ振興事業団

#### ウ. ボードレスアート展「わんだーぼっくす」の開催

- ・日時：12月3日（日）～4日（月）
- ・内容：わんだーぼっくす受講生作品およびTakatsuki Art Challenge展出展作品  
社福ノーマライゼーション協会西淡路希望の家（協力出展）
- ・入場者：239名
- ・後援：高槻市・市教育員会、高槻市社会福祉協議会、高槻市人権まちづくり協会、社福つながり・つながり後援会、フェスタ・ヒューマンライツ2023実行委員会

### 3) ひとりぐらし高齢者・障がい者・若者支援事業

#### ①地域支え合い事業

これまでひとりぐらし高齢者および高齢者世帯への食事や買い物、家事支援、安否確認、心のケア等様々な地域における社会的支援の仕組みづくりを構築することを目的に実行委員会立ち上げと「高齢者のお困りごと」訪問調査を実施してきました。2023年度は、高齢者見守り事業を試行的に実施し、今後事業実施に向け協議を進めます。

#### ②障がい者グループホーム整備事業

ア. グループホーム「コラム富田」につづく女性用グループホームの整備検討

重度障がい者夜間支援型グループホーム整備については、2018年5月に富田地域内で男性7名入居のグループホーム「コラム富田」開設入居となりました。

引き続き女性用グループホーム整備に向け社福つながり後援会家族会ひだまりと共に用地確保に努めてきました。

### 4) 青少年・子育て支援事業

#### ① こどもの歩みバックアップ「様々な課題を持つ子どもたちへの学習支援事業」

様々な課題を持つ中学生を対象に、学習支援を行うことで低学力の克服と地域における「貧困の連鎖」を防止する事を目的に2014年8月より学習支援事業を実施しています。今期は、新型コロナ禍の状況に合わせながら実施を行いました。

#### ア. 学習支援教室わんぴーすの通年開催

生活困窮以外に発達障がいや不登校の課題を持つ生徒のニーズも高く、元教員、大学生の講師体制により事業の円滑な実施に努めました。

また、必要に応じて保護者面談を実施し、進路相談や家庭での過ごし方の提案などを行いました。

結果、中学3年生は希望の進路に進むことができました。

また、2023年度も卒業生が頻繁に訪れてくれる場となりました。卒業して終わりではなく、何かあった時には相談や報告に来てくれる、卒業後改めてこうした場が自分たちの居場所であると再認識してくれる事は学習支援が継続されてきたことがいかに大きな意味を持っていたのかを知る大きなエピソードとなりました。

なお、学習支援については現在の形態を見直し、2024年度より「子どもの居場所事業」にその役割を移行しました。

- ・期間：5月～3月の毎週2回 月・水の午後6時～8時（実施回数88回・面談回数16回）
- ・場所：富田ふれあい文化センター2F学習室1・2・交流室1・2
- ・対象：中学生・卒業生（のべ313名）
- ・参加費：12,000円/月 ※要支援家庭6,000円/月（教材費・保険代含む）
- ・講師体制：教職員経験者および大学生・大学院生のシフト制で実施（のべ433名）
- ・後援：高槻市・高槻市教育委員会・社会福祉法人高槻市社会福祉協議会

#### イ. 青少年相談事業並びに中学校等との連携

- ・青少年相談事業を通じた親支援も並行して実施
- ・生徒1人1人の特性や課題等について当該中学校との連携会議を概ね2～3か月に1回のペースで開催
- ・学習支援および以下のフードパントリーの取り組みを通して189件の相談を受け・対応しました。

## ②「ただいま～と言える子どもたちの居場所をつくる」

### ア. 子どもたちの夕刻を支える場「ただいま食堂」

・趣旨：毎年、ケア付き食堂をコンセプトに「一緒に食卓を囲むことを通じてつくられた信頼関係をもとに、家族のこと学校のこと、進路のことといった子どもの生活課題への対応を目指す」ことを趣旨に実施してきましたが新型コロナウイルスの影響によりフードパントリーとして実施しました。

- ・期間：5月～3月の毎月1回（実施回数12回）
- ・年間配布世帯数：5世帯
- ・場所：タウンスペース WAKWAK 事務所
- ・対象：市内全域からつながってきたケース
- ・後援：社会福祉法人高槻市社会福祉協議会

### イ. 富田版子ども食堂「富田わくわく食堂」

・趣旨：共生食堂をコンセプトに「地域に住む多世代、子どもから高齢者まで多くの人たちがごちゃまぜに交わる交流拠点」を趣旨に開催。今期は、阪急阪神ホールディングスグループの支援のもと、一般財団法人100万人のクラシックライブと協働し、地域・家庭・学校・行政・大学・企業など多セクターの協働で実施しました。

- ・日時：2月3日（土）11時～15時
- ・テーマ：クラシックライブや様々な文化体験を通して「地域に“つながり”の橋をかける」
- ・場所：富田ふれあい文化センターおよび社会福祉法人つながり「サニースポット」
- ・内容 ①舞台（地下大ホール）
  - 開会セレモニー（来賓あいさつ）
  - 100万人のクラシックライブ×「わたしからはじまる Peace Action」富田小・赤大路小6年生有志読み聞かせ&富田取り組みスライド
  - つるちゃんの紙芝居
- ②各ブース
  - よちよちコーナー（わらべうた、ミニお話し会ほか）ベテラン保育士
  - ふれあい遊びコーナー（磁石を使った魚釣り・工作ほか）富田小・赤大路小6年生有志
  - わくわくワールド（世界地図輪投げ・オランダのゲーム）大阪大学留学生ほか
  - 市域広域事業展示
- ③昼食（カレーライス）元ボランティアグループひまわり
- ・参加者：のべ来場者945名、ボランティアスタッフ従事者195名 総数 1140名
- ・協賛品：お菓子（神峰寺）・おもちゃ&お菓子（ふーどぼんく Osaka）・歯ブラシ（サンスター株式会社）

## 5) CSW（コミュニティソーシャルワーク）事業

### ①コミュニティソーシャルワーク事業

中学校区でのフォーマル（公的機関）・インフォーマル（民間その他）の連携による支援ネットワークという長年培ってきたまちの財産を活かし、また発展しながら子どもから高齢者の困りごと相談への対応や解決、関係機関へのコーディネートを行いました。

### ア. 青少年の支援のための学校教育との連携

学習支援わんぴーす受講生やフードパントリー等の日々のケース対応に当たっては、当該の小、中学校と密に連携を図り、支援を行いました。また、深刻なケースに当たっては、市のSSWやカンガルーの森などの関係機関等とも連携し相談・支援にあたりました。

## V. 収益事業、その他事業

法人の社会貢献事業を支えるための持続的かつ安定した財政基盤を強化することを目的として以下の事業を行いました。

### 1) 富田地区視察の受け入れおよび講師派遣事業

市内外や他府県の行政機関や福祉施設等へ職員が講師として積極的に出向き、包摂型のまちづくりの実践談や人権啓発の推進を図りました。また、富田地区視察の受け入れを積極的に行いました。ここで得た報償費（収益）については、法人の安定的な基盤づくりに寄与するとともに法人の社会貢献事業へ循環しました。

①SV・助言者等	1件（部落解放・人権大学助言者）
②研修講師派遣	18件
③富田地区の視察、調査の受け入れ	7件
④執筆依頼等	2件

### 2) 事務受託事業

部落解放同盟高槻富田支部、富田富寿栄老人会、富田地区企業者組合、社会福祉法人つながり後援会・家族会ひだまりに加え、富田富寿栄A棟自治会と事務受託契約を行い、計5団体の事務受託について適正に事業を執行致しました。

### 3) マイノリティと出会う旅 スタディツアーの準備

2024年度以降に開催予定のアメリカ先住民居留区へのスタディツアーの開催に向け、法人事業に関連するスタッフ・関係者ととともにツアー準備会を開催しました。

- ・期間：7月27日（木）～8月12日（土）
- ・行先：アメリカ・サウスダコタ州 ネイティブアメリカン居留区ほか
- ・内容：①マイノリティ アメリカ先住民との出会い  
②先住民の伝統的儀式的サポート
- ・参加者：5名
- ・その他：その他のツアー先についても検討するとともに旅行業取扱管理者の取得についても検討しました。